

広島市植物公園 見どころ案内

ユキワリイチゲ (キンポウゲ科)

本州西部から九州に分布する多年草で、山際などに分布します。8~12枚の薄い紫色の萼(がく)が晴れた日には開きます。

新型コロナウイルス感染症対策のため、フクシア温室、展示温室、サボテン温室、展示資料館、休憩展望塔の公開を中止しています。また、実演会など全ての行事を中止しています。森のレストラン、森のカフェ、花売店は営業しています。

ハナモモ(関白) (バラ科)

白花で中輪の八重咲のハナモモです。2月下旬から咲くので、寒白とも言われています。ハナモモも実はなりますが、小さく硬いため、食用には適しません。

ゲンカイツツジ (ツツジ科)

中国地方、四国北部、九州北部に分布する落葉低木で、環境省準絶滅危惧種 (NT) に指定されています。3月に葉の出る前にピンク色の花を咲かせます。

ヒメアリアケ カズラ

(キョウチクトウ科)
南アメリカのブラジルなどに分布する常緑低木。広く栽培されているアリアケカズラに似ているが、蔓(つる)性ではない。沖縄では春から秋にかけて花が見られます。3~5cmぐらいの黄色い花をつけています。実は花の美しさには似合わず、小さなドリアンのようなとげとげしたものになります。

クリスマスローズ

(キンポウゲ科)
ベゴニア温室周辺やログガーデンで咲いています。これから春に向けてバラエティーに富んだ花色で彩られます。

タンチョウソウ

(ユキノシタ科)
イワヤツデとも呼ばれます。根茎からヤツデを思わせる切れ込んだ葉を広げます。花茎の先に白い小さな花が密集して咲いています。

カランコエ

(ベンケイソウ科)
アフリカ、アラビア半島、アジアに約100種類が分布し、色々な園芸品種が作り出されています。サボテン温室閉鎖のため、見頃のものも順次展示します。

サンシュユ (ミズキ科)

別名「ハルコガネバナ」と呼ばれます。これは早春に葉が出る前に木一面に黄色い花をつけることに由来します。秋にはグミのような赤い実をつけることから「アキサンゴ」とも呼ばれます。

カンヒザクラ (バラ科)

中国南部から台湾、日本にかけて分布し、国内では沖縄に分布しています。沖縄では、桜と言えばこの種を指します。濃いピンクの、完全に開かない状態で、ホタルブクロの様な咲き方をします。

